



ほととぎす いたくな鳴きそ 汝(な)が声を
五月(さつき)の玉に あへ貫くまでに」

巻8-1465 藤原夫人(天武天皇夫人)

ほととぎすよ、そんなにひどく鳴かないでくれ。お前の声を五月の玉に交せて糸に通すことができるその日まで



幼児期には非認知能力の育成が大事！

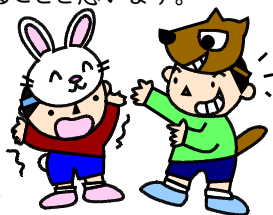
「目には青葉 山ほととぎす はつがつお」

風薫る5月となり、馬見丘陵を吹き抜ける風が爽やかにほほを撫で、周りの木々に目をやれば若葉が目まぶしく、新緑が増す好季節を迎えています。また、日々の忙しさをリフレッシュできたゴールデンウィークもあっという間に終わりを告げました。

新年度がスタートして、早くも1か月が経過しようとしています。その間、子どもたちは新たな友達や先生方にも慣れてきて、充実した園生活・学校生活を送っていると思います。

今年度から、けんこう福祉部にあった「こども局」を教育委員会事務局教育振興部に編入させていただきました。広陵町で生まれ、育ちゆく子どもたちは、0歳から18歳までは広陵町に在住しています。子どもたちの保育や教育については一貫通貫的に、0歳からの子育て支援とともに、保育園・幼稚園・こども園での就学前教育、小学校・中学校・高等学校での学校教育によって「人づくり」を担っています。そのため、これまで以上に子育て支援と幼稚園教育等の就学前教育に力を注ぎ、「こどもまんなか社会」の実現を目指し、様々な施策を展開していこうと考えています。

ところで、幼児期にもっとも大切なしなければならない力に「非認知能力」の育成があります。



「非認知能力」には、大きく2つの力があり、1つ目は、自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信などの「自分に関する力」であり、2つ目は、一般的には社会性と呼ばれる、協調性、共感する力、思いやり、社交性、良いか悪いかを知る道徳性などの「人と関わる力」です。

これらの力は「社会情緒的スキル」ともいわれ、乳幼児期に身につけておくと、将来に渡って幸せな生活を送ることができると言われています。日本の幼児教育では、もともと心の教育を大切にしてきました。非認知能力は、「心の土台」のようなもので、土台がぐらついていると、小学校や中学校で相応のウエイトがかかったとき、支えきれずに自分のものにはできません。乳幼児期にしっかりとその土台を作っていれば、きちんと積み上げていくことができる。そのような力を言います。

今から6年前の2018年4月に「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」が新しくなり、その中に明記された「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」の約7割が「非認知能力」に相当するものになっています。特に、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活とのかかわりが、非認知能力と深く関わるものとなっています。もちろん、子どもは家庭と園の2つの世界で生活していくので、子どもの様子など、幼稚園や保育園、こども園の先生たちとの連絡を密にしながら2つの世界をうまく橋渡しできると、さらに子どもの発達がより健康な形で進んでいくと思います。



ご家庭でできる非認知能力を伸ばす方法は、その条件として、「乳幼児期から大人に愛されて無条件に受け入れられている。」という経験をもつことです。父母からの絶対的な愛情を感じることで、心の安定につながり、自分の感情をコントロールできるようになります。会話や読み聞かせ、触れ合いを通してスキンシップを大切にすることが大切です。

また、乳幼児期の子どもにとって、遊びは学びです。ただいたずらしているだけにしか見えないようなことでも、子どもの頭の中では自ら「問い」をもち学びを深めています。危険を伴ったり、周りの迷惑にならない場合で、熱中しているときはそっと見守ってあげることも大事だと思います。



非認知能力の5つの例

① 勤勉性・誠実性 (Conscientiousness)

目標に向かって取り組む態度のことで、勤勉さの度合いが高い人ほど、より熱心で野心や自信があると言われる。非認知能力の中でも重要な性格特性のひとつと考えられています。責任感があり、信頼性が高く、自制心があって我慢強い。慎重でどんなときにも冷静になる能力がある人なども勤勉で誠実な正確の人といえます。

② 開放性 (Openness)

外界の体験に対して開放的に向かい合う性格のことです。創意工夫や想像力に富み、素早く情報を処理し決断する理知的な能力や知的好奇心が旺盛な人を指します。

③ 外向性 (Extraversion)

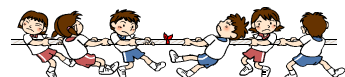
積極的で親しみやすく、社会との関わりを進んで持とうとする性格です。リーダーシップを発揮する人や決断力のある人もこの外向性が高い人と言えます。

④ 協調性・調和性 (Agreeableness)

周囲に寛大で協力的な性格のことです。面倒見が良く、他人のサポートを進んで行い、付き合いやすい人のことです。

⑤ 神経症傾向・情緒安定性 (Emotional Stability)

楽観的で、情緒の安定した性格を指します。リラックスしていてストレスをうまく発散でき、障がいにもうまく対処できる人に高いと言われる性格要素です。



園・学校から



入園・入学式の園長先生・校長先生のコメント



広陵北かぐやこども園

今年度は、46名が元気に入園してくれました。式では、先生たちからの出し物『キャベツの中からの手遊び』もあり、楽しいこども園のスタートを切ってくれたようです。式が終わって、満開の桜を背景に記念撮影もできました。

東小学校附属幼稚園



新入園児は7名でともに東小学校区です。受付では保護者の皆さんが「今日の日を楽しみにしていました。」とお話してくださいました。泣くこともなく、笑顔で式に参加してくれました。在園児も一緒に式に参加し全園児22名での笑顔いっぱいの式となりました。令和7年度で閉園になります。が、みんなの笑顔をつながていきたいと思ひます。

真美ヶ丘第一小附属幼稚園



素敵なセレモニーウエアに身を包み、髪の毛をセットし、お家の方に手を引かれて15名のつばみ組さんが入園式にきてくれました。みんなが入園式で一番喜んだのは、先生からのお楽しみ「幼稚園ってどんなところ？」のコントです。役者ぞろいの先生達なので、楽しく盛り上げてくれ、笑顔いっぱいの入園式となりました。

真美ヶ丘第二小附属幼稚園



3歳児8名、4歳児2名、計10名の子どもたちが入園してくれました。

登園して式場（遊戯室）前でクラスの名札とお花をつけてもらい、嬉しそうに名札を手にして

親子で微笑む姿が見られました。楽しい雰囲気の入園式を迎えることができました。

広陵東小学校



6年生の児童、先生、保護者の皆さん、来賓の方々に見守られて、令和6年度は68名の新生入生が入学しました。

名前を呼ばれると、みんな元気にお返事ができました。毎日元気にそして安全に登校してほしいと願っています。

広陵北小学校

44名の新生入生を迎えました。夢と希望でいっぱいの1年生。広陵北小学校での出逢いを大切にして生活してほしいと思います。出逢いの「で」はできることは自分でやる。「あ」は挨拶をする。「い」は一生懸命する。人との出逢いと一緒に3つの「で」「あ」「い」を大切に6年間元気に過ごしてほしいと願っています。



真美ヶ丘第一小学校

学校では、①3人以上で、②体を使って、③工夫のある遊びをたくさんして、「遊びの名人になって欲しい」という話をしました。「3人以上の人と遊ぶと友達がたくさんできます。体を使って遊ぶと、丈夫な体や心が培われます。工夫のある遊びをすると、頭もかしこくなります。これからのみんなの成長にとって一番の栄養になる「いい遊び」をたくさんして、楽しい学校生活を送ってください！」

と新生入生にメッセージを贈りました。

広陵中学校

式辞の言葉どおり、陽光うららかな良き日に、新たに196名の皆さんが広陵中学校に入学してくれました。「ご入学おめでとうございます」期待と不安で胸がいっぱいの中、中学校生活がスタートしました。これからの日々は新鮮で時間がすぐに過ぎていきます。様々なことにどんどんとチャレンジしていき、実りある中学校生活にしていってほしいです。



真美ヶ丘中学校



4月10日（水）、うららかな春の光の中、令和6年度入学式を行い、リニューアルされた新しい制服に身を包んだ125名の新生入生を迎えました。

新生入生代表生徒は、誓いの言葉の中で「仲間とともに協力しながら前に進んで行こうと思います」と力強く語っ

てくれました。

お詫言 すべての園・学校が載せられず申し訳ありません。

今月の一言

他人の位置に時々自分をおき、自分の位置に他人をおき、他人の気持ちを察し、小我をのさばらすな

武者小路 実篤

他人の気持ちを考えるために「相手の立場に立ってみる」ことは、ひいては自我を抑えることにもつながります。

